

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書			2025/9/30		
団体名	NPO法人共に暮らす	活動タイトル	外国にルーツを持つこどもに向けた高校進学に関する制度理解の向上を図る事業		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	・「ことばのヤングケアラーが必要のない世界」を目指す ※「ことばのヤングケアラー」とは、日本語を話せず、読み書きもできない外国籍の両親のために、病院や役所での手続きを通訳・代筆する小学生や中学生のこどものこと ・ことばのヤングケアラーの負担軽減と、こどもの将来へ向けたキャリア形成に集中できる環境を整える ・こどもがこどもらしく過ごせる時間を取り戻す		進学に関するガイドブック表紙 		
	●団体の社会的役割(ミッション)				
	●団体の活動基盤				
	①外国にルーツを持つ人々が日本で生活するために必要な情報を分かりやすく届けること ②こどもの学習環境を整えること ③こどもの居場所づくり（国籍ルーツ関係なく集まれる場）				
	・人材の確保 教育関係の人材、ファンドレイジング担当、運営担当者、ボランティア指導者 ・寄付活動 ・教育機関とのコネクション 行政の担当課、各学校、支援機関・団体 ・情報：どの学校に何人外国人児童がいて、その子たちの言語レベル				
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		群馬県内の高校一覧の表紙 	
外国人児童（小学校高学年～中学生）とその保護者に対して、高校の進学率を向上をめざし次の活動を行った。 ■高校進学ガイドブックの作成と配布 日本の学校制度、高校進学のメリット、高校の入試制度を中心に解説したガイドブックと群馬県内にある高校のガイドブックを作成した。やさしい日本語を使用しフリガナを表記することで、分かりやすさを目指した。このガイドブックを読むことで、高校進学に関する知識得ることができ、不安や疑問が解消され、将来へのキャリア設計をイメージしやすくなる。作成したガイドブックは特に外国人児童の多い地域の学校に配布した。 ■ガイドブックを利用した進学に関する説明会の開催 外国人児童（小学校高学年～中学生）とその保護者を対象に説明会を開催した。 ■冬休み学習塾の開催 外国人児童（小学校高学年～中学生）を対象に冬休みの宿題をする場を作るための学習塾を開催した。教職を目指す大学生を中心にボランティアチームで指導に当たった。		■高校進学ガイドブックの作成と配布 高校進学ガイドブック、高校一覧それぞれ200部作成し、200部配布した。 ・中学校6校に20部ずつ（120部）送付 ・直接配布80部 ■高校進学説明会の開催 【11月 20名参加】【2月 30名参加】【その他こども食堂と同時に開催2回】 ■教育関係者や他県の団体へのガイドブックの配布 県内に限らず他県も含めた、教育関係者や支援団体から、ガイドブックに関する問い合わせがあり、配布した。 ■冬休み学習塾の開催 5日間行い、のべ45名が参加。約70%の外国人児童が宿題を完遂し、のこり30%のこどもも宿題を6割完了させた。			
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）	
■高校進学ガイドブックの作成と配布 ガイドブック作成にあたり、全国の行政や団体がすでに作成している資料やセミナーを参考としたことで、外国人児童やその保護者がどのような情報が必要で、どのようなことを不安に感じているのかを把握することができた。 ■ガイドブックを利用した進学に関する説明会の開催 日本人であれば当たり前前に『分かっていること』が外国人児童やその保護者に対しては『当たり前ではない』ということが、より具体的に分かった。ニーズを把握することができた。 ■冬休み学習塾の開催 参加したこどもだけではなく保護者ともつながることができた。また、教職をめざす多文化共生に関心の高い学生が多くボランティアとして参加してくれた。これにより、次の活動や支援につなげることができる。		今回の活動を通して見えてきた課題は次のとおりである。 ■有益な情報は発信したがその方法はやや一方的であった 関心の高い生徒やその親は、説明会に参加して今回のガイドブックに触れることはできるが、そうではない、関心の低い生徒やその親には届いていない。今後はそういった層にいかに、有益な情報を提供することができるかが重要になる。必要な施策は例えば、外国人児童向けの学習教室を常設し、こどもたちが常集まる場を作り、日々のコミュニケーションの中から困っていることを掬い取る仕組みを作るなどである。 ■お金に関する関心が高いが、理解は必ずしも高くない 義務教育は無料だが、高校はお金がかかるから『進学しない』を選択するケースもあるが、高校進学することで、どの程度費用がかかるかは、そこまで理解しているわけではない。この部分は丁寧に解説して、費用対効果を検討できるようにする必要がある。また、支援制度も紹介する必要がある。		この1年間の活動を通じて	
				高校進学についての理解向上	
				を達成しました。	
				■ 受益者の具体的な変化（自由記入）	
				生徒の高校進学に関する興味関心を高めることができた。 高校進学した時の自分をイメージすることができた。 高校進学に関する不安や疑問を解消できた。	